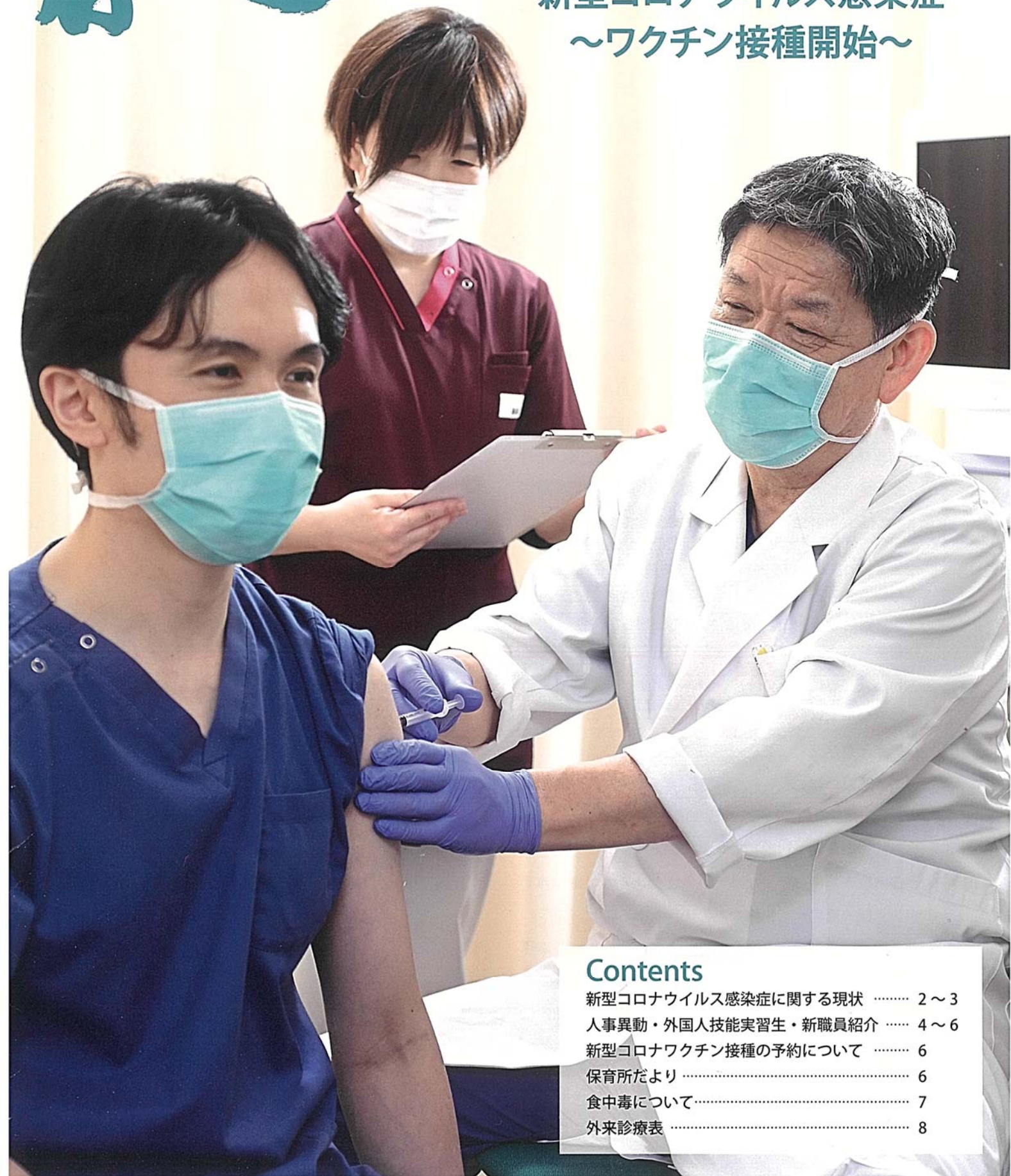




新型コロナウイルス感染症 ～ワクチン接種開始～



Contents

新型コロナウイルス感染症に関する現状	2～3
人事異動・外国人技能実習生・新職員紹介	4～6
新型コロナワクチン接種の予約について	6
保育所だより	6
食中毒について	7
外来診療表	8

新型コロナウイルス 感染症に関する現状



2020年1月16日に国内最初の新型コロナウイルス感染症患者の報告があつてから1年以上が経過しました。政府は、2021年4月25日から3回目となる「緊急事態宣言」を東京、大阪、兵庫、京都の4都府県を対象に発令しましたが、感染拡大は収まることなく、感染者数は日々増え続けております。

岡山県においては2020年3月22日に県内初の感染者の報告があり、一時はこのまま終息するかと思えた時期もありましたが、今年4月になり感染急拡大、未だに流行の終息は見えない状況です。4月16日には岡山県知事が「第4波が到来している」との認識を示し、「恐ろしいスピードで感染者が増え、変異株が主な要因になっている。全ての県民の力で感染者を減らさない限り医療崩壊してしまう」と会見で強調しています。引き続き、一人ひとりができる感染対策を今以上に丁寧に確実にやっていく必要があります。

新型コロナウイルス感染症は発症すると、熱や咳といった風邪によく似た症状がみられます。軽症で治癒する場合も多いですが、症状が重くなると呼吸困難や肺炎が重症化し、死亡に至る場合もあることは皆さんご存知のことと思います。この1年で様々な事が解明され、PCR検査などもかなり普及し、重症例に関しての治療薬の有効性も判明してきてはいますが、決定的な治療法は未だ明らかになっていません。そのため海外での治験で重症化や発熱などの症状が出ること（発症）を防ぐ効果が明らかになっているワクチンに、感染終息に向けた大きな期待が寄せられています。そのワクチン接種について、5月5日時点での情報をお伝え致します。

ワクチンについて

- 新型コロナワクチンについて知ってほしいこと
- ✓ 新型コロナワクチンは2回の接種により、発熱や咳などの症状が出ること（発症）を95%防ぐ効果が認められています。
- ✓ 新型コロナウイルス感染症に対する特効薬も開発中である今、多くの方に接種を受けていただくことにより、重症者や死亡者を減らし、医療機関の負担を減らすことが期待されています。
- ✓ 国は新型コロナワクチンの接種について国民に対して接種の推奨をしていますが、強制ではありません。ワクチン接種による感染予防の効果と、副反応のリスクの双方について理解した上で、自らの意思で接種をお願いします。
- ✓ 一般的に、ワクチン接種では副反応による健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こる可能性が極めて稀ではあるもののゼロではありません。ワクチン接種によって健康被害が生じ、医療機関での治療が必要になったり、障害が残った場合には、予防接種法に基づく救済が受けられます。詳しくは市町村配布の「新型コロナワクチン接種のご案内」（封書）をご覧ください。



■ 費用：無料新型コロナワクチン接種は国及び地方自治体の接種事業の一環として行われ、公費対象となります。

■ 対象：16歳以上の方（16歳未満の方に対する有効性・安全性は明らかになっていません。）

■ 予約方法：詳しくは市町村配布の「新型コロナワクチン接種のご案内」（封書）をご覧ください。
当院でも予約を受け付けております。詳細は院内配布チラシをご覧ください、職員にお尋ねください

■ 接種開始時期：医療従事者、高齢者、基礎疾患のある方などから順次開始予定です。（詳しくは、厚生労働省や倉敷市のホームページ等でご確認ください）
ワクチンの供給状況によって変わる場合があります。

■ 接種回数：2回
1回目接種後、3週間の間隔（21日間隔）で2回目の接種を受けてください。
1回目の接種から3週間を超えた場合には、出来る限り速やかに2回目の接種を受けてください。
1回目と2回目は同じワクチンの接種を受けてください。

■ 新型コロナワクチンの有効性：新型コロナウイルス感染症の発症を防ぐ効果があります。接種を受けた人が受けていない人よりも、新型コロナウイルス感染症を発症した人が少ないことが分かっています。（発症予防効果は95%と報告されています）
ワクチンの接種で十分な免疫ができるのは、2回目の接種を受けてから7日後程度とお考え下さい。

■ 接種時の服装：安全に確実に接種を行うために、
簡単に肩が十分に露出できる服装にしてください。



右写真参照→

■ 接種当日の持ち物：クーポン券・予診票（市町村配布のお知らせに同封されています）
本人確認書類（運転免許証、健康保険証など）

■ ワクチンを接種してからの過ごし方

ワクチン接種を受けた後しばらく（15～30分）は、接種を受けた医療機関等の施設内でお待ちいただき、体調に異常を感じた場合には速やかに医師、看護師などへ伝えてください。



感染を予防する効果は不明な為、ワクチン接種後も基本的な感染対策（マスクの着用、三密の回避、手洗いや咳エチケット等）は継続して行ってください。注射した部分は清潔に保つようにし、接種当日の入浴は問題ありませんが、注射した部分はこすらないようにしてください。
接種当日は激しい運動は控えましょう。

外出自粛やマスク着用、三密の回避といった感染対策を遵守した巣ごもり生活を1年以上続けていても、感染者が一向に減る気配さえなく、未だ出口の見えない状況が続いています。若年層を中心とした変異株の流行は、自粛生活が長期化し過ぎ「自分だけが自粛しても感染者が減ることはない」という気持ちからの行動が原因なのかもしれません。

感染終息のために大きな期待を寄せられている新型コロナワクチンの有効性については、従来型のウイルスに対して、2回の接種後1～2か月以内という限定付きですが、十分な有効性があるとされています。安全性についても短期的には確認されていますが、長期の安全性については今後経過を見ていく必要があります。ワクチン接種さえ受ければ、以前の日常を取り戻せると期待を膨らませている人もいれば、今までとは全く違う製法のワクチンに不安を抱く人もいると思います。今まで他のワクチンでアレルギーが出たことのある人、アナフィラキシーを経験したことのある人、特定の薬や食べ物で強いアレルギーのある人は医師と事前に相談の上、冷静に接種の判断をして頂くようお願いいたします。

院内感染対策委員長 絹川 敬吾
感染管理認定看護師 脇元 慶子



食中毒について

食中毒は、年中を通して発生しています。食中毒というと、飲食店での食事が原因と思われるがちです。しかし、毎日食べている家庭の食事でも発生しています。普段当たり前にしている事が、思わぬ食中毒を引き起こす事があるのです。家庭での発生では、症状が軽かったり、発症する人が1人や2人のことが多いことから、食中毒とは気づかれずに重症化することもあります。

家庭での食事作りでの食中毒予防の6つのポイントが「厚生労働省」より発表されています。家庭で何気なくしている事が、食中毒を発生させる引き金になっているかもしれません。我が家は大丈夫ですか？今一度、確認をしてみてください！！

家庭でできる 食中毒予防の6つのポイント

point 1

食品の購入



point 2

家庭での保存



point 3

下準備



point 4

調理



point 5

食事



point 6

残った食品



食中毒予防の3原則

食中毒菌を「付けない、増やさない、やっつける」

厚生労働省

※厚生労働省 食中毒 「家庭でできる食中毒予防の6つのポイント」参照